

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【学校理念】「真善美」を校訓に、豊かな人間力をはぐくむ

【教育方針】

1. 「鍛える」 頑張ることができる力（心・体・知のトータルバランス）
2. 「見守る」 十人十色の個性と成長、集団の力
3. 「高める」 豊かな教養・人権感覚・国際感覚・他者貢献

【めざす学校像】

- 100年を超える伝統を受け継ぎながら、生徒のニーズや保護者の期待に応える学校
- 生徒一人ひとりの自己実現を最大限に支援する学校
- すべての生徒が安全・安心に生活できる学校
- 保護者や地域のみなさんとしてしっかり連携し、生徒の生きる力を引き出し育てる学校

2 中期的目標

生徒の自己実現を図るため、生きる力を引き出し育て、一人ひとりの希望する進路を実現する。

1. 学力を伸ばす～基礎・基本の徹底、その上に成り立つ自分で考え自分の言葉で説明できる力の育成。

- (1) 3年間の学習目標と計画「寝屋川高校スタンダード」の策定
- (2) 学力向上を図るための組織的な体制を構築する。
- (3) ICT機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。
- (4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」のさらなる向上をめざす。
- (5) 平成 29 年度 学校経営推進費事業による「ICTを活用した授業」の充実を図るためHR教室に設置した短焦点プロジェクターの活用充実やタブレット活用による授業改善の取組みを展開する。
- (6) 講習、補習の計画的実施と内容の充実
- (7) 新しい学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策
- (8) テンミニッツの推進と生徒使用タブレットの活用
センター試験 対全国平均得点率 10%アップ（平成 29 年度獲得の学校経営推進費による事業の3年間の目標）

2. 21世紀型能力の育成～

高校卒業後すぐの進路だけでなく将来を見据えた社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成する

- (1) 新たな時代に対応する3年間のキャリア教育計画・進路指導の改善・進路ガイダンス機能の向上に取り組む。
- (2) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営や生徒会活動・部活動の充実を進め、自立心や主体的に行動する力を養う。
- (3) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神のや国際感覚の育成を図る。
- (4) 生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させる。
- (5) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨
生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さ、人権を学ぶ」の肯定率（H30 87%）を2021年度には92%にする。
「自分の考えをまとめたり発表する機会」の肯定率（H30 82%）を2021年度には92%にする。

3. 学校力のパワーアップ

- (1) 新しい組織の充実 横断化・全体化するためのシステムづくり
- (2) 目標と成果の共有、当事者意識に基づく協働の推進による質の高い教育実践のためのR P D C Aサイクルの浸透
- (3) 課題別、経験別の職員研修体制の充実を図り教員力のさらなる向上を図る
- (4) 教育相談体制のさらなる充実等により、事象の早期発見早期対応につなげる。
- (5) 広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に生徒・保護者・中学生・地域等へ発信する。
- (6) 教員力を最大限に引き出すため、「働き方改革」について整理検討する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒編】 質問全 15 項目のうち「 そう思う、 どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した生徒が 80%を超えた項目は、今年度は 9 項目 (H30H29 とともに 9 項目) だった。昨年度に比べると、15 項目全てにおいて肯定的回答のポイントは向上している。</p> <p>「授業以外の講習・補習等、学力向上の場」の評価が 91.2%と高評価であるのに対し、「教育方針や教育計画を分かりやすく示している」が 78.7%、「自分で計画を立て、家庭学習する時間の確保」は 69.3%と低く、自学自習に課題を感じる。授業改善についての取組みが組織として動き始めたので、今後の伸びに注目したい。</p> <p>強い肯定で 50%を超えて高かったのは「部活動に意欲的で成長を感じる(入部者のみ)」57.4%、「入学してよかったと満足」55.9%、「授業以外の講習・補習等、学力向上の場」52.1%、「学校行事に積極的に参加」50.9%で、寝屋校生の活力を感じる。様々な学習活動や生徒が自己実現できる機会を重視する教育方針の徹底を今後も進めていく。</p> <p>強く肯定した生徒が 30%以下であった項目は、昨年に引き続き「教育方針・教育計画の分かりやすさ」27.2%、「健康の保持増進・安全対策」(27%、H29 28%)「自分で計画を立て家庭学習」29.2%、「部活動と学習の両立」28.1%である。どの項目もこの 3 年間の推移は同様であった。 昨年度今年度と様々な災害が続く状況を鑑み、今まで以上に防災意識向上のための取組みや基礎学力を上げ、自己実現につなげていくための工夫が必要である。</p> <p>【保護者編】 全 15 項目のうち「 そう思う どちらかと言えばそう思う」と肯定的に回答した保護者が 80%を超えた項目は、10 項目 (H30 11 項目、H29 11 項目) で、昨年より「子供の健康や安全の配慮」がわずかながらポイントを下げた。 全体的には 4 項目で昨年の評価を上回ったが、残りの 11 項目では少しづつではあるが、減少した。</p> <p>最重要事項である「入学させてよかったと満足している」という質問では、強い肯定が 53.4%(H30 55%、H29 55%)で若干下げたものの、肯定的な回答は 93.9%と昨年を 3.6 ポイント上回っている。今まで積み上げてきた改善や教職員一丸となった指導を粘り強く続けていく必要がある。</p> <p>強い肯定が 20%未満の項目は「施設設備・学習環境」1 項目でこの項目だけはここ数年続いており、建物の老朽化を保護者から数多く指摘を受けている。また、「学習指導」については 20.1%(H30 21.6%)「授業以外での学力増強の取組み」は 21.9%(H31 25.1%)と楽観できない結果である。引き続き改善策を講じていく。</p> <p>保護者、生徒共に学校行事や部活動など積極的に参加することについては肯定度は高いが、「保護者の期待や願いに応える」の肯定が 89.2%で昨年より 1%下がったことは重く受け止め、引き続き生徒一人ひとりの自己実現を大切に取る取組みを進めていきたい。</p> <p>【教職員編】 肯定的な回答が 80%を上回ったのは 5 項目で「高い教育力を発揮している」項目では昨年より大きく 10 ポイント下がった。また、昨年度を上回った項目は 9 項目、下回った項目は 6 項目で、否定的な項目が上回ったのは「PDCA サイクルに沿った改善思考」で、学校経営、学校教育の根幹というべき点において低い評価であったことを真摯に受け止め、改善を急務としたい。</p> <p>「教育相談」「人権教育」でやや数値が向上した。人権教育推進委員会を設置し、一定の理解を深めつつあるが、60%で十分とは言えない。教育相談体制は 6%向上し(86.5%)生徒に寄り添いながら、生徒の観察及び指導がなされていると感じている。</p> <p>「指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている」については、94%と高い数字となっている。授業力向上委員会の引き続き授業研究の取組みを進めていく。</p> <p>一方で、「生徒の学力伸長・進路実現」については昨年より 19.6%も落ち込んでいる。「どちらかといえばそう思わない」が例年になく 2 割強の教職員が感じている。組織として取り組む姿勢が問われている。</p> <p>「生徒の健康・安全」は保護者と相反して 88.5%と高い評価となっている。昨年度より改善したという意味で高い評価となっていると分析するが、どのように発信するかが課題。</p> <p>「各教科での学習指導計画・評価に対する十分な議論」「教授法・教材研究・生徒と向き合う時間等時間の確保」では数値が落ち込んでいる。また、「特別活動・部活動の重要性」では 96.1%と高い評価となっており、生徒指導は重要であるが、十分にその時間が確保できない状況がうかがえる。以前から長時間勤務が問題となっており、今後の教員減に伴う分掌業務の精査や学校行事の在り方等についても再考していく必要がある。</p>	<p>【第 1 回】令和元年 7 月 1 日 (月) 16 時 ~ 17 時 於 校長室 出席者 (委員) 5 名 (事務局)校長、教頭、事務部長、首席 2 名、指導教諭 1 名、教諭 1 名</p> <p>1. 会長・副会長および学校運営協議会について 会長・副会長選出 (確認・報告事項) 大阪府立寝屋川高等学校学校運営協議会(全日制部会)実施要綱について 全日制部会の会長を学校全体の会長に、定時制部会の会長を学校全体の副会長とする。定時制部会の協議会終了後、更新。 「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について 意見書なし。</p> <p>2. 協議(学校側から の項目について説明) 学校運営計画および学校評価について 授業力向上の取組みについて ・相互授業見学の拡大 ・ICT機器の活用 ・パッケージ研修 の実施 ・命と絆をテーマにした活動 学校経営推進費について 前年度進路実績について</p> <p>協議内容 ・小中高大の連携 人口減少が見込まれる寝屋川市の魅力の一つとしての教育のレベルアップを図る。 ・目標達成シートは生徒にも意識させ、卒業時にどのような力をつけて社会に出ていけるのか、生徒にとってもイメージできた方が良い。 ・生徒の人権意識が薄い状況に対し、人権教育計画を明確に。 ・21世紀型能力の育成とあるが、具体的にはどのような能力がイメージを明確に。 ・目標と計画に連動性がない。記載の仕方を分かりやすく。 ・生徒会活動をもう少し生徒の意見を反映したものにできるとより良いのでは。 ・来年の110周年記念をチャンスに更なる躍進を期待する。</p> <p>【第 2 回】令和元年 12 月 20 日 (金) 15 時 ~ 16 時 於 校長室 出席者 (委員) 4 名 (事務局)校長、教頭、事務部長、首席 2 名、指導教諭 1 名</p> <p>1. 協議(学校側から の項目について説明) 学校経営計画および学校評価の進捗状況について ・学力向上について... 7 月の相互授業見学、11 月 14 日実施の研究授業に関して ・ICT機器の有効な活用方法の検討 ・前期授業アンケート ・進路関係... 令和元年度の進路実績 センター受験者数 学校教育自己診断について 学校経営推進費... 食堂の改装(全日制・定時制の生徒会合同ミーティング)</p> <p>協議内容 (学校経営計画について) ・寝屋川スタンダードの中身について — 3 年間を見据え、「どんな生徒をつくりたいか」が重要だと思う。 基本・基礎を各教科で実践していくことであると考えている。 ・スピード感が企業では重要で、学校でもその感覚があれば、学力・学校力が伸びていくのではないかと思う。 ・レスポンスすることが重要で、すぐに動くことがスピード感につながる。 ・隣接している小学校があり、小さい子供の将来像としての高校生であってほしい。 (学校教育自己診断から) ・学校教育自己診断については様々な考え方があるが、各項目で高い割合を示していることは寝屋川高校に対する評価だと思う。 ・「授業がよく分かる」の項目が増えたのは、よい傾向である。 研究授業はこのまま継続して行ってほしい。 パッケージ研修は見えないところから見える化につながるものである。 これを対話的で主体的な深い学びにつなげていく。 小学校対象の理科教室は小学生が学びながら高校生が学んでいく良い仕組み。 ・「ディスプリン」を育て、軸がぶれないで進めることが重要であり、どの授業を受けても良いと思わせる授業内容を構築することである。 ・研究授業は 1 回では終わらない。取組みの最初は声大きい継続していくことが大切。 ・アクティブ・ラーニングについては、準備が大切で、準備をしてどのような変容があったのか検証することが大切。また、授業力の低い先生に対して周囲がどうサポートして全体を上げていくかが、スピード感や組織としての取組みにつながる。 (学校経営推進費) ・食堂を改装。全定の交流、または外部との交流を図る場として活用していく。</p> <p>【第 3 回】令和 2 年 2 月 5 日 (水) 13 時 ~ 16 時 於 校長室 出席者 (委員) 4 名 (事務局)校長、教頭、事務部長、首席 2 名、指導教諭 1 名</p> <p>1. 授業見学(初任者(英語)・教諭(理科)) 2. 確認・報告事項 「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について 意見書なし。</p> <p>3. 協議(学校側から の項目について説明) 平成 31 年度学校経営計画(評価) 令和 2 年度学校経営計画(中期的目標)について 後期授業アンケート</p> <p>協議内容 (授業見学から) 【理数物理】声も大きくテンポ良い進め方であった。授業のゴールイメージを持たせることと、発問は全体に対して行い、考える機会を均等に与えてから指名するほうが自分事として捉え、緊張感をもって受けることにつながる。 【コミュニケーション英語】効果的な手法で実施していると思うが、もう一歩踏み込んでリジカリティ感のある展開をしてみれば。簡単な指示は英語とするなど、授業の進め方としては、英語で行うようにルーティン化すると良い。チョークの色使いなど、色覚の障がいに対応することも考えては。 (H31 学校経営計画・評価について) ・生徒と保護者の入学に対する満足度はかなり高いことに比して、生徒の「寝屋校生であることに誇りを持つ」ことが 8 割を切っているのはなぜか。 ・生徒の満足度にいかに対応していくのかを期待する。 (R2 学校経営計画の承認について) ・全体的には昨年度より分かりやすい表記となっており、更なる取組みを大いに期待する。 ・裏面の具体的な取組みを次回のこの場では提示し、説明してもらいたい。教育活動に期待する。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価（達成状況）
1 学力を伸ばす	<p>恒常的な授業改善により、「基礎・基本の徹底、その上に成り立つ生きる力の育成。」</p> <p>(1)「寝屋川スタンダード」策定 (2) 学校全体で組織的な授業力改善研修の実施</p> <p>(3) ICT 機器等の積極的活用</p> <p>(4) 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して「授業力」向上</p> <p>(5) 授業改善の取組みを進める (6) 講習・補習等の計画的実施</p> <p>(7) 新しい学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策</p>	<p>(1) 教育センターのパッケージ研修（2年目）を実施</p> <p>(2) 指導教諭を中心に授業力向上の取組を進め、授業評価や外部模試の結果等を踏まえた授業改善に取り組む。</p> <p>(3) ICT 機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業わかりやすさや効率・集中力を高める。 ICT 活用促進のための研修を実施する。その際、積極的に活用している教員を講師とするなど、相互の教員力向上を図る。</p> <p>(4) また、研究公開授業や内外の研修また、大学や地域の中学校との研究等を通して、授業形態・授業方法の研究・改善に取り組む。 さらに、相互授業見学の拡大を図るとともに、教科会議を活性化させ、シラバスの充実を図り、新カリキュラムの検討を進める。</p> <p>(5) H29 の学校経営推進費事業による、H R 教室短焦点プロジェクター等の活用により、学力向上の取組を進める</p> <p>(7) ・新しい学習指導要領の研究し、主旨を全職員で共有し新しい教育課程作成に取り組む。 ・大学入試制度改革の研究および対策について検討</p>	<p>(1) すべての教科での研究授業を実施</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断における、授業に関する満足度 「教え方の工夫・授業がよくわかる」を 85% 以上 (H30 81%)</p> <p>(3) 技術段階別の、ICT 活用研修をさらに充実させる、生徒の ICT 活用と関連させて実施する。</p> <p>(4) 相互授業見学週間の実施 全教科での研究授業の実施</p> <p>(5) センター試験の全国平均に対する得点率 H31 年度比で 10% アップ</p> <p>(7) ・管理情報室を中心とした検討会議を定期的実施し職員に発信 ・研究開発室を中心とした検討会議を定期的実施し、職員に発信</p>	<p>(1) 教育センターのパッケージ研修（2年め）を活用し、各教科で「寝屋川スタンダード」（3年間の学習目標・計画）を策定し、校内で研修をしながら全教科において研究授業を実施した。（ ）</p> <p>(2) 授業力向上委員会を設置（指導教諭・首席・教務・進路）。「教え方の工夫・授業がよくわかる」86.1%（ ）</p> <p>(3) ICT の活用指導力調査（文科省）において、教員の意識調査では、昨年度は全国平均を下回っていたが、今年度は様々な研修や授業相互見学等から活用した授業や公務で活用しており、ほとんどの項目で肯定的な回答であった。（ ）</p> <p>(4) 相互授業見学を実施（6月・1月実施） 1回目（6月）は教員の約 75%が見学（1人平均約 2 回見学）。11 月に 1 年生全クラスで全教科で研究授業・研究協議を実施。（ ）</p> <p>(5) 科目によってバラつきがあるが、全科目で全国平均を上回っている。得点率は平均すると 5% アップしているが、目標としている 10% アップに至らなかった。（ ）</p> <p>(6) 土曜講習を年間 9 回実施した。1、2 年生は国数英の 3 教科、3 年生は 5 教科で実施。特に 3 年生は夏期冬期休業中に集中講習を実施し、各教科で延べ人数 300～400 人が受講した。（ ）</p> <p>(7) ・カリキュラム委員会開催。新学習指導要領に沿った検討と学校全体の教育体制について検討開始。 ・大学共通テストに対する情報提供を保護者・生徒に随時発信（進路説明会・進路講演会等）（ ）</p>
2 21 世紀 能力の育成	<p>(1) 基本的人間力の鍛錬（進路指導機能の向上を通じた）</p> <p>(2) 文化的・芸術的活動や読書活動の推進（自立心や主体的行動力の養成）</p> <p>(3) 様々な体験活動を通じた人権感覚と国際感覚の涵養</p> <p>(4) コミュニケーション能力の育成</p> <p>(5) 社会貢献・ボランティア活動の積極的参加推奨</p>	<p>(1) 挨拶、時間、清掃、感謝、貢献について日常的に全職員で指導に当たる。</p> <p>(2) 2 年生の芸術鑑賞、3 年生の文楽鑑賞のほかに授業や部活動を通してコンテストに参加を積極的に呼び掛け、機会を多く設定する。文芸 G が中心となった読書マラソンや各種コンテストにチャレンジを呼び掛ける。</p> <p>(3) 3 年間を見据えた人権教育の構築と組織的な国際交流活動の充実</p> <p>(4) 学校経営推進費支援機器を活用しプレゼンや発表の機会を校内外で実施</p> <p>(5) 寝屋川市や市内中学校、福祉施設など外部との連携交流推進</p>	<p>(1) 全職員で実施</p> <p>(2) 全員対象の読書コンクール ・読書マラソンの実施 ・その他コンテスト実施 ・外部のコンテスト等への参加および参加促進</p> <p>(3) 人権教育の評価 肯定 90% (H30 87%)</p> <p>(4) 総合探究授業、修学旅行プレゼン、人権探究学習、英語コンテスト実施 肯定 (H30 82%)</p> <p>(5) 寝屋川市や小・中学校との様々な連携 ・様々な形で全員が実施</p>	<p>(1) 全職員で指導実施 協働して教育活動に取り組んでいる (教職員学校教育自己診断評価 H31H30 63.5%) ()</p> <p>(2) 校内学芸コンクール実施、() ・読書マラソン (35 人エントリー) フル(1,000 頁オーバー) 15 人 ハーフ (500 頁オーバー) 1 人 外部コンテスト応募 ・京都・大阪数学コンテスト 1 年生 1 名入賞 (入賞 2 名中) ・情報モラル・セキュリティコンクール (IPA 主催) 2 年生 4 名入賞 (優秀賞) ・その他多数応募</p> <p>(3) 90% 本年度より人権教育推進委員会を再編し、年間計画の見直しを行った。目標値にはほぼ到達しているが、大阪府条例の改正等に伴い、次年度以降の人権のカリキュラムを再考する。() 「命の大切さ、人権を学ぶ」肯定率 90% () 「自分の考えをまとめたり発表する機会」肯定率 84.7% ()</p> <p>(4) ・修学旅行行き先別報告 (生徒による学年通信) ・1・2 年生英語スピーチコンテスト全員参加。(2 年生はプレゼン形式で実施。) ・人権探究学習テーマ別で実施 (2 年生の発表を 1 年生が聴く) ()</p> <p>(5) ・小学生向け理科教室 (中央小学校小 1～小 3 延べ 50 名参加) 本校生徒がリーダー (先生) 役になり実施。 ・その他清掃活動や、部単位の活動等で多数実施。今後、生徒会を中心に、地域連携を進めていく。()</p>

府立寝屋川高等学校

<p>3 学 校 力 の パ ワ ー ア ッ プ</p>	<p>(1)目標や成果の共有と協働に努め、職員の一体化をはかる(システムづくり) (2)RPDCAサイクルによる改善志向の定着 (3)教員の研修体制の構築 ・ミドルリーダーを育成する。 ・OJTを基本とした実践的な研修を計画的に実施。 ・内外の研修参加による資質向上 (4)教育相談機能の充実 (5)学校広報と情報発信機能の充実 (6)働き方改革について検討</p>	<p>(1)めざす学校像・育てたい生徒像を共有する機会を常に設ける。(パッケージ研修の活用) (2)学校教育自己診断。学校運営協議会に意見等の学校運営改善への反映 (3) ・次代のミドルリーダーとなる教員研修の実施。現ミドルリーダーをけん引役として実施し相互向上を図る。 ・中堅教員を初任者研修の一部の講師とし相互の育成を図る。経験の少ない教員に対しては、地域行事や学校説明会等に積極的に参加させる。 ・府教育センターの研修や、大学と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。 (4)教育相談にかかる理解を深める機会を増やし常に共通理解に努める。 (5)学校紹介PPや学校案内(次年度向け)のリニューアル (6)働き方改革について検討する。</p>	<p>(1)目標共有にかかる職員自己診断結果 肯定 80%(H30 63%) (2)RPDCAサイクルにかかる職員自己診断結果 肯定 70%(H30 50%) (3)実施回数と振り返り ・5回以上 (4)職員自己診断結果 肯定 85%(H30 81%) 生徒自己診断結果 肯定 80%(H30 77%) (5)生徒や経験の少ない教員なども参画し、学校案内の改定、H30改定のHPの内容の充実を図る (6)時間外勤務時間 10%減</p>	<p>(1)62.7% 今年度はパッケージ研修の活用で、「組織で」を意識して展開したが、組織的に取り組むためにも、次年度以降も学力向上委員会を機能的に運用する。() (2)43.2% ・学校教育自己診断分析結果をもとに育てたい生徒像、めざす授業増について職員研修を実施。 ・スクールポリシーの構築と共有化を行う必要がある。そのためには各部署の総括の徹底が必要。() (3) ・教育Cリーダー研修受講者、10年研受講者による校内授業改善、若手指導等の研修の実施 ・教職大学院で学ぶ教員による授業改善にかかる研修実施。 ・リーダー研修に2名参加。 ・大教大教師の学び舎延べ5人参加 ・外部講師の活用研修1回 () (4)職員 86.3%(○) 生徒 77.8%() ・各学年の教育相談係とSCSVからの指導助言の内容を学年ごとに共有化 (5)12月よりHPリニューアル。見やすくなって、保護者からも高評価。() (6)時間外労働 4～12月の比較では約17%増。 生徒への個別の丁寧な対応および土日の部活動付添が原因。 現在月平均42.2時間。()</p>
--	---	--	--	--